

Technical Visitor

series total 15

「ヘアサロン再考学 パートI」 公式ガイド

TEXT by
モックン・カズロー

ルなファッションが受け入れられるようになった。ファッションが時代の鏡とは、よく言ったもんだ。ところがその時代も初めてアメリカでカジュアルウェアが考案された一九五六年とは、状況がまったく違うわけで、モノが蔓延している現在に於いては、いくらカジュアルといえどもそれらが飛ぶように売れるはずはない。ならば人々は今、そのカジュアルなセンスをどこでどう表現しようとしているのだろうか。

全国18万7千件もあり、喫茶店よりも多いとされている美容室がお洒落の近道として再認識されている、と言えればお判り頂けるだろうか。今一番手軽で目を引くカジュアルとはヘアスタイルなのである。「そんなの身だしなみでしょ。」としか考えてないあなた、このコーナーを機に美容室の在り方を見直してみてもどうかだろうか。

第1画面—受付

思い通りにお洒落をしたいなら、必ず予約をしよう。いくら客の立場だとはいえ、何をして欲しいのかがスタッフによく伝わらない横柄な一見注文の代表格、「スケテキル?」や「早くシテチョータイ。」は技術者の意欲を喪失させることは言うまでもなく、従業員全員をも敬に回しかねない。礼儀正しく氏名を名乗り、「今日はどうぞなさいませ

か。」の質問を待ち受け、パーマなのかカットなのか、シャンプーは必要なのかを明確に告げるとしよう。予約をしたからといって①平気で一時間も遅れる。②「何時マテニシテチョータイ」とケツカッチンする。③常連顔を気取って受付で名前をわざと記入しない。④だまって店に侵入してきて、唐突にカットブースのイスに座り込む。などの反則攻撃は、絶対気に入ったスタイルにはして貰えないことを肝に銘じておこう。「コノバッグ大金が入ッテルンダケド大丈夫カシラ。」の質問も「ご自分でお持ちになられた方がよろしいかと存じます。」とアッサリ切り返されるので、こちらも覚えておくようにしましょう。もっぱらこんな愚鈍なことをする連中は、20代後半のオミズ型OLと相場が決つてようだが、「未だに毎朝前髪カールさせてる、イケイケ一本巻のそのあなたのことやノホケケッ!」：失礼。

第2画面—待ち台

大人しく下世話な雑誌を読んでいるのが一番だ。偉そうに足組をして下品に煙草を吸ったり、テイクアウトもんを持ち込んで飲食をしたり、連れ同士で来て大声でベチャクつたりする暇があるのなら、他のお客さんの仕上がりやスタッフは誰なのかを把握しておこう。

第3画面—シャンプーブース

ようやくシャンプー台に案内される時が来た。成るがままにスタッフに身を委ねよう。

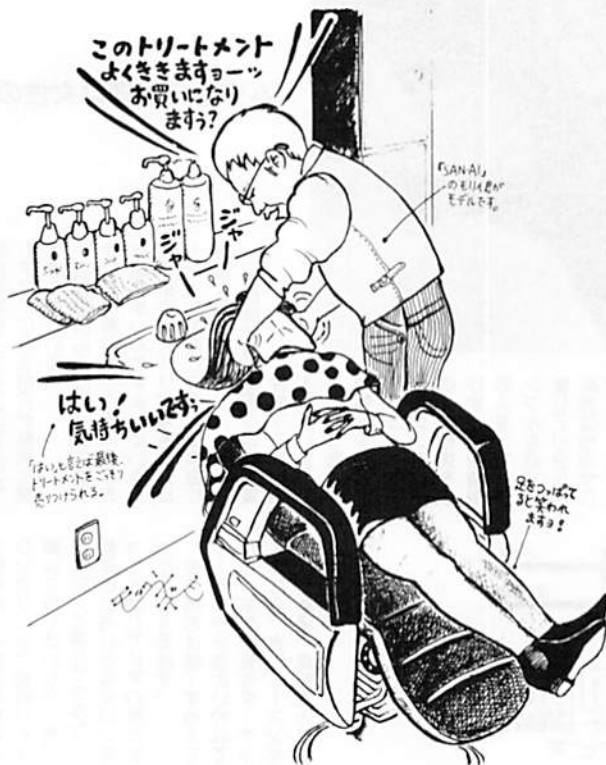
①「痛くないですか」はフケトリと髪のもつれを解すブラッシング作戦の合図だ。痛くても必死で我慢しよう。

②「失礼します。お倒しいたします。」の言葉を耳にしたら、すばやく自分の頭がシャンプーボールのまん中に来るように移動しよう。背の高い人は何故か標準の位置より頭を下げようとする傾向にある。自分の襟足がシャンプー

ベスト・ポジションだということを覚えておこう。

③「お首は苦しくありませんか。」の質問をされたが最後、顔面には容赦なくワキガ・口臭対策用のガーゼ地フェイスカバーが被せられる。相手が聞き取りにくいようにモゴモゴ喋ってやろう。

④「お湯加減よろしいですか。」を合図にお湯を頭にかかれた瞬間、スタッフの鼻先には立ち籠める蒸気と共に何ともいえない悪臭が昇ってくるらしい。頭が臭い女性はいくら美人でもご遠慮願いたいと言うのがスタッフ全員一致の意見だ。必ず自宅でシャンプーして来よう。



CONCEPT—概念

消費者の個性化・多様化を追求しているうちに、多品目・小ロット生産でしか商品を作れなくなっていた我が国のアパレルメーカーは、当然の如く生産効率の低下と物流コストの上昇で経営難に追い込まれた。業界が唯一売上を見込んでいた、成金族の虚栄消費用インポートものも、完全に不景気風に煽られ廉価商品に成り下ってしまった。お洒落—高級記号服といった公式はもはや何の効力も持たない時代となってしまうのである。人々のお洒落観は必然的に、自己主張型のハレ(非日常)指向から、安心で実用価値の高いケ(日常)指向へと移行し、フォーマルでドレスシーなファッションよりカジュアル